キラリ★八代人

生涯 野球道

松高小学校4年野球部コーチ

庄村　政敏さん　（永碇町）

「もっと前に突っ込んでボールを捕らんかい」、「ボールはしっかり見らんかい」。ノックのバットを握りしめ、汗をかきながら子どもたちを熱血指導しているのは庄村政敏さん、92歳だ。上手くなりたいと全力でぶつかってくる野球部員を相手に約2時間、叱咤激励する。

庄村さんは、松高小学校4年生野球部の現役コーチだ。同小グラウンドで週3回指導を行っている。

庄村さんの野球との出会いは80年前にさかのぼる。スポーツと言えば野球という時代だった小学5年生の頃、庄村さんも迷わず野球を始めた。ポジションはピッチャー以外は何でもこなし、得意な打撃でチームの勝利に貢献した。1人で戦うのではなく、チーム一丸となって戦うプレーに魅力を感じ、野球にのめり込んだ。

「野球が楽しくて、楽しくて。学校が終わったら、日が暮れるまで友だちと毎日野球をしていましたね」と話す。戦争の影響で学生時代に一時中断したが、それ以外は社会人になってからも野球とともに過ごしてきた。

45歳の頃、近所の野球部員の保護者から「子どもたちを指導してほしい」と言われ、以来、子どもたちと一緒に汗を流しながら、勝利を目指し続けている。

▲庄村さん（前列右から2番目）と松高小学校4年生野球部の皆さん

指導で重視しているのは基礎練習だ。「足腰の強さが、どのプレーにとっても大事なんです」と足腰の強化を主体としたウォーミングアップを行っている。また、キャッチボールや個人ノックで守備能力を高めることに力を入れている。

その細やかな指導は、部員からも厚い信頼が向けられている。「投球が上手くできなかったとき、腕の使い方などを何度も教えてもらって上手になりました」「コーチは練習中は厳しいけれど、休憩中は学校での話を聞いてくれたりして優しいです」と部員たちは笑顔で語る。

さらに、庄村さんには野球の実技以外にも心がけて指導していることがある。それは、基本的な挨拶や礼儀、そして仲間同士の連帯感を大切にすることだ。社会人になっても、多くの仲間と一緒に頑張るような選手になってほしいとの思いがあるといい、練習中、子どもたちのキビキビとした動きと大きな声が響き渡る。

守備練習の時、休むことなく数百球のノックをする庄村さん。その体力と元気の秘訣は毎日の生活習慣にあるという。毎朝のラジオ体操や農作業、庭先の樹木の手入れなど、指先を使うようにしている。認知症の予防にと、日誌や家計簿を毎日記帳し、国語辞典の書写にも力を入れている。

「今後、自分の体力が続く限り少年野球の指導者としての役割を全うしていきたい」という庄村さん。関係者や保護者の皆さんからの暖かい支援に感謝しながら、今日もバットを強く握りしめ、ノック1本1本に魂を込める。

目　次

Table of Contents

2015.JULY　　No.127

3 特集 夏をエンジョイ

8 国民健康保険・国民年金

10 後期高齢者医療

12 市立博物館 夏季特別展覧会 なるほど！妙見さん

13 平成27年度 八代市職員募集 <後期日程>

14 くらしの情報

16 市民カレンダー

18 くらしの情報

27 広告

28 まちのわだい
農業参入に関する協定書調印式
フードバレーアグリビジネスセンター開所式
N1バイオマス発電設備建設工事竣工式
たがみ ほたるまつり

31 伝言板

32 丑の湯祭り

今月の表紙

6月17日、代陽幼稚園でプール開きが行われ、全園児33人が今年初めての泳ぎを楽しみました。

ピンク色や黄色、青色などカラフルな水着を着た子どもたちは「キャー」「冷たーい」と笑顔で大はしゃぎ。みんなでカニさん歩きをしたり、水しぶきを上げながら歩いたりして一足早い夏を楽しみました。